

日本音楽集団 第22回定期演奏会

一九七四年五月十四日(火) 七時開演
都市センターホール

一、みち——日本楽器による八人の奏者のための 作曲 長沢勝俊

二、四面の箏のための音楽 作曲 間宮芳生

三、十人の邦楽器奏者のための音楽 (本年度委嘱初演) 作曲 甲斐説宗

四、鳩のいる風景——二本の尺八のために (東京初演) 作曲 佐藤敏直

五、ダンス・コンセルタント 作曲 二本 稔

〈踊る春〉 〈水巡る〉 〈秋、そして〉 〈風の花〉 〈エピソード〉 (追加初演)

一、みち——日本楽器による八人の奏者のための 長沢勝俊

MICHI for Eight Players of Japanese Instruments

Katsutoshi NAGASAWA

〔篠笛〕望月太八〔尺八〕宮田耕八朗〔三絃〕杉浦弘和

〔琵琶〕山田美喜子〔第一箏〕野坂恵子〔第二箏〕坂井とし子

〔第三箏〕吉村七重〔十七絃〕宮本幸子

皆様方に心から感謝する次第です。

集団の歩んで来た「みち」は決して平坦なものではありませんでした。この運動が新しい「みち」を切り開いていく以上それは当然のこととはいえ、仲間達の青春をかけた精一杯の努力と強い連帯の上に今日の集団があることを思うにつけ、今更のように深い感慨をおぼえます。

この曲は昨年三月に行なわれた研究団員による新人演奏会のために書いた作品であり、集団の若いエネルギーを信じ共に次なる新しい「みち」を切り開いていきたいという願いをこめたものです。今回は団員の手により演奏されます。

私達日本音楽集団も結成以来、今年で十年を迎えました。この間、私達の歩みを終始暖い目で見守り励まし、多くの御力添えを頂いた

二、四面の箏のための音楽

Music for Four Koto Michio MAMIYA

間宮芳生

〔第一箏〕吉村七重〔第二箏〕池上早苗〔第三箏〕湯浅麻美子
〔第四箏〕花房はるえ

「四面の箏のための音楽」は、ぼくの作品の中でも特に幸運な曲の一つで、演奏される機会が数多くありました。そんな機会に度々曲の成立ちや解説は書いて来たので、くり返すことは止め、そのかわり近頃少し気になることを書いて見ることにしました。

なにしろ、伝統的な箏には十三本の糸しかないのです、必要な時に必要な音高が得られるように、この曲では四面みな別々な調に調弦されているわけです。そこまではいいのですが、二つの楽章を同じ調弦で書いてしまう気にならなくても、その結果二つの楽章の間で、四面ともかなり大幅に調弦を変えなければならぬようになっていきます。そのために楽章の間で長い時間をとるのは、曲の持続にとって大変マイナスです。時間の短縮のために、ステージのそでにもう一面ずつ箏を用意して、楽章の切れ目で大急ぎで楽器をとり換えたこともありましたが、曲の途中で、演奏者以外の人間が大きな箏をかかえてステージをウロウロするのは、さらにマイナスを大きくするだけでした。

調弦を変えずにすむのが一番いいのはあたり前です。方法はいろいろあるでしょう。二十絃、三十絃と糸を増やす。奏法による。調弦も変えず曲の結果も変えないように、曲の方の音の配分を工夫する。そのどれでもない解決方法もあるでしょう。問題はここから先です。というのは……たとえば二十年三十年先、この曲が演奏されるとして、その時やっばり調弦を途中で変えているか、あるいは……その時どんな道を探っているかは、これから生れて来るだろう箏の音楽の中心、その本質に重大な影響があるだろうと思えるからです。一つのヒントとして、フレンチホルンにピストンがつく以前と以後とを比べて考えて見るというのはどうでしょうか。勿論それに類した方法が最上だという意味ではありません。

なお、今回の演奏では、四面の二十絃箏によって演奏される予定です。(集団注)

三、十人の邦楽器奏者のための音楽

甲斐説宗

Musik für Zehn Spieler von Japanischen Traditionellen Instrumenten
Sesshū KAI

〔篠笛〕望月太八〔尺八〕宮田耕八朗・坂田誠山〔細樟三絃〕杉浦弘和〔太樟三絃〕坂井とし子〔琵琶〕半田綾子〔第一箏〕野坂恵子
〔第二箏〕砂崎知子〔打楽器〕藤舎成敏・高橋明邦
〔指揮〕田村拓男

この度、この曲を書くにあたって、邦楽器をききなおし、そのニユアンスの豊富さや、人間的味わいにあらためて感動しました。この曲では、私は、その豊かなひびきの中から一つのあり方だけを選び出すことを考えました。聴く人の心に何げない響きの味が何げなく伝わるために、また、聴く人がその響きの移ろいに自然にのっていくために、素材をあらゆる面で節約して、一つの局面でとらえ、曲の流れを一つの線の上にのせることが、どうしても必要だ思っただけです。そして「点」を選びました。それは、枯れたきびしい表情を持った「点」です。

四、鳩のいる風景

——二本の尺八のために

佐藤敏直

PIGEONS IN A SCENE for Two Shakuhachi Toshinao SATO

〔尺八〕宮田耕八朗・坂田誠山

鳩・上野公園の鳩・子どもに寄ってくる鳩・電車の線路におりる鳩・広島平和公園の鳩・北国の鳩・小豆島の小さな波止場の鳩。鳩は平和の象徴というけれども、日本の鳩も本当にそうなのでしょいか。

私の仕事場の古い机の脇の壁にも、ピカソの描いた鳩の絵の複製色紙がかかっています。一筆描きをおもわせるタッチの、ひろげた

羽をもつこの鳩には、その腹部に女性の顔が描かれています。なにげなく毎日眺めているのですが、この鳩は悲しげに映ることが多いように思われます。

「鳩のいる風景」は、いろいろな鳩のいるシーンに寄せて書いた作品です。四つの断片はどれがどのシーンであるかをきめるほどには、はっきりしたイメージで書かれていません。単に四つの異なった小曲が並んでいると思つて構わないわけです。

更にこの作品は、宮田耕八朗・坂田誠山両氏のために書いて昨年暮に大阪で初演されたのですが、再演に際して著しく改めました。したがって今夜はほぼ初演と同じです。

こうして創立十周年の演奏会に作品で参加できたことは嬉しいかぎりです。私のささやかな願ひは、日本音楽集団がそれほど珍しがられない存在になること——そういう日本でありたい——ということです。

五、ダンス・コンセルタント

三木 稔

〈踊る春〉〈水巡る〉〈秋、そして〉〈風の花〉〈エピローグ〉

Dances Concertantes Mimiru MIKI

〔篠笛〕望月太八・松沢綾子〔第一尺八〕宮田耕八朗・福田輝久・藤崎重康・新井 尚〔第二尺八〕坂田誠山・三橋保源・関 一郎・田嶋直士・徳山舟英〔三絃〕杉浦弘和・野口美恵子・浦田久美子〔琵琶〕山田美喜子・半田綾子・田原順子〔第一箏〕野坂恵子・池上早苗・花房はるえ・小室圭子〔第二箏〕坂井とし子・砂崎知子・吉村七重・飯吉圭子〔十七絃〕宮本幸子・湯浅麻美子・中西仁子〔打楽器〕尾崎太一・藤舎成敏・堅田啓輝・高橋明邦・小幡 亨〔指揮〕田村拓男

全国から集まるアマチュアの演奏家たちのために

一九七三年八月の軽井沢

第三回日本音楽集団夏期合奏研究会の曲として作る

楽想が生硬にならぬよう

過去 一九五六年から一九七二年までに ぼくの担当した舞踊シーンから 易しい旋律素材を選ぶ

四つの章 〈踊る春〉〈水巡る〉〈秋、そして〉〈風の花〉は四季に由来する

今回の上演に際し プロフェッショナルなコンサート用のヴァイジョンとして〈エピローグ〉を追加

ということば アマチュアの方々は 既成の四章だけで〈ダンス・コンセルタント〉と称して下さってもよい ということ

〈エピローグ〉は 第四章〈風の花〉からアタッカで続けられ打楽器奏者が 何人でも 夫々好きな打楽器を持ち込んで加わることができる

箏・琵琶・三絃・尺八の部分的なソロが聞かれる

なお、エピローグにおける打楽器群カデンツァは今回藤舎成敏が作曲しました。

さて、日本音楽集団のための今までのぼくの作品は、どちらかというと、ソリスト一人一人の個性を尊重して書いたもので、声部の重複は有効ではないし、現状としては、高水準の技術が必要とするようである。そのため、現代邦楽に参加したい初心の若者たちを拒否する結果になり、心苦しいことではあった。

こゝに二・三年に書いた、詩と和楽器による「阿波の子タヌキ譚」、三曲合奏のための「小諸」、二面の箏による「箏 双重」、二声ないし三声の合奏教本「パーティンションI〜VI」それにこの「ダンス・コンセルタント」といった一連の作品は、技術的にも、感覚的にも易しく、自己表出も随分と抑制して作曲したつもり。声部を重複して大合奏で行うことも、当初から考慮の中にあつた。

そのような心掛けが、作曲様式上の新しさを寧ろ拒否し、コンサートヴァイヴな試行であつたとしても、作品・演奏の質とは別のことであらう。

日本音楽集団創立十周年、激しく自省する時に立ち、定まらぬ明日を、寧ろペンシスティックに探りながら、なお、四季を表わす「ダンス・コンセルタント」の四章を、冬で終ることのできなかった、またしても熱い自分に苦笑を禁じ得ない。

<日本音楽集団のレコード>

レコード・タイトル	収録曲名	作曲者	演奏者	レコード会社名	レコード番号	発売年	定価
現代日本の音楽<3>	古代舞曲による パラフレーズ 尺八三重奏曲	三木 稔 清瀬保二	日本音楽集団 指揮：横山千秋	日本コロムビア	OS・10052	1969	2,000 ☆ (yen)
日本音楽集団による 三木 稔の音楽	序の曲、天如、ソネット 凸、はばたきの歌 孤響、箏 譚詩集 四群のための形象 古代舞曲による パラフレーズ くるだんど	三木 稔	日本音楽集団 指揮：秋山和慶 箏独奏：野坂恵子 尺八独奏：横山勝也 東京ソリスト 日本合唱協会 東京放送合唱団	日本コロムビア	JX・21~4 〈全曲スコア付〉 〈1970年度芸術祭大賞受賞〉	1970	7,200 ☆
響／和楽器による 現代日本の音楽	組曲「人形風土記」 しがらみ第2 他	長沢勝俊 八村義夫	日本音楽集団 指揮：田村拓男 他	RCAビクター	JRZ・2505~8	1970	8,000 ☆
日本美の響き／ 和楽器による 日本旋律集	木曾節 他 14曲	編曲：長沢勝俊	日本音楽集団 指揮：田村拓男	日本コロムビア	YS・10097	1971	1,900 ☆
日本音楽集団による 日本の民謡	小諸馬子唄 他 14曲	編曲：小川寛興 若松正司	日本音楽集団 指揮：田村拓男	キング	SKK・673	1971	1,500 ☆
日本の楽器	日本の各楽器の代表的 古典曲・現代曲の 一部又は全部を収録	監修：長沢勝俊 三木 稔 解説：長広比登志 霜島素子	日本音楽集団 他 ナレーション： 立川澄登	RCAビクター	JRZ・2520~1	1972	4,000
人形風土記／ 子供のための組曲	組曲「人形風土記」 子供のための組曲	長沢勝俊	日本音楽集団 指揮：田村拓男 横山千秋	RCAビクター	JRZ・2523	1972	2,000
日本の楽器入門	第一面・箏のなかま 第二面・尺八のなか ま 第三面・三味線のな かま 第四面・太鼓のなか ま 代表曲豊富	監修・解説： 三木 稔 台詞：秋浜悟史 話し：伊藤惣一	作・構成・演奏・ 野坂恵子 宮田耕八朗 杉浦弘和 清水義矩 川崎祥悦 日本音楽集団	日本コロムビア	ELS・3342 ~3	1972	3,000
古典⇄現代／ 日本音楽集団の世界	第一面： 古典各楽器の 代表曲8曲 第二面：凸 (カデンツァ入り)	三木 稔	日本音楽集団 指揮：田村拓男	日本コロムビア	OS・10127	1972	2,000
佐保の曲・竜田の曲／ 野坂恵子箏リサイ タル	佐保の曲・竜田の曲 六段の調 箏 譚詩集 みだれ	三木 稔 八橋檢校 三木 稔 八橋檢校	野坂恵子	日本ビクター	VX・109	1972	2,000
日本美の響き／ 和楽器による日本 旋律集 第2集	からたちの花 他	編曲：長沢勝俊 山野狩人	日本音楽集団 指揮：田村拓男	日本コロムビア	YS・10120	1972	1,900
阿波の子タヌキ譚	阿波の子タヌキ譚 三つの阿波のわらべ 歌 子供の四季	三木 稔 三木 稔 長沢勝俊	日本音楽集団 徳島少年少女合唱団 指揮：田村拓男 バリトン：中村義春	日本コロムビア	YS・10141	1973	1,900 ☆
日本美の響き／ 和楽器による日本 旋律集 第3集	わらべ唄・童謡 を中心に	編曲：長沢勝俊 若松正司	日本音楽集団 指揮：田村拓男	日本コロムビア	YS・10151	1973	1,900
日本の響き —これぞPCM録音	阿波踊り他 12曲	編曲：安達元彦 長沢勝俊	日本音楽集団	日本コロムビア	NCB・8013	1973	2,200
長沢勝俊作品集	二つの舞曲 箏四重奏曲 詩曲・萌春	長沢勝俊	日本音楽集団	RCAビクター	未定		

※レコード店で上記レコードが入手困難なとき、日本音楽集団事務所に、お問い合わせ下さい。

☆印は入手不能です。ご希望の方には貸出しをいたします。

△日本音楽集団今後の予定▽

△主として自主企画のもの▽

六月十三日(火) 音舞会と共催による新作発表演奏会。日経ホール。
六月十九日(水) 二十六日(水) 北日本公演(函館・札幌・旭川・盛岡・仙台)

七月十三日(土) 芦屋演奏会

七月十六日(火) 十八日(木) 第八回九州サマー・フェスティバル

出演(福岡・久留米・小倉)

七月二十日(土) 姫路演奏会

日本音楽集団連名

△団員▽

望月 太八(能管・篠笛)

坂田 誠山(尺八)

杉浦 弘和(三絃)

山田美喜子(筑前琵琶)

田原 順子(筑前琵琶)

白根きぬ子(箏) 在米中

砂崎 知子(箏・三絃)

池上 早苗(箏・二十絃箏)

湯浅麻美子(十七絃箏)

藤舎 成敏(打楽器)

高橋 明邦(打楽器)

長沢 勝俊(作曲・演出)

霜島 素子(理論・演出)

△研究団員▽

関 一郎(尺八)

花房はるえ(箏)

松沢 綾子(笛)

宮田耕八朗(尺八・竜笛・篠笛)

三橋 保源(尺八)

野口美恵子(三絃)

半田 綾子(薩摩琵琶)

坂井とし子(箏・三絃)

野坂 恵子(箏・二十絃箏)

吉村 七重(箏・二十絃箏)

宮本 幸子(十七絃箏)

尾崎 太一(打楽器)

堅田 啓輝(打楽器)

田村 拓男(指揮・打楽器)

三木 稔(作曲・演出)

福田 輝久(尺八)

小幡 亨(打楽器)

田嶋 直士(尺八)

八月上旬 第二回軽井沢アート・フェスティバル協賛出演

八月九日(金) 十二日(月) 第四回夏期合奏研究会。北軽井沢ミュージック・ホール。

十月一日(火) 芸術祭開幕式典演奏会(予定)。国立大劇場。

十一月十三日(水) 杉浦弘和リサイタル。日経ホール。

十一月下旬 十二月前半 東南アジア日本週間出演(インドネシア・フィリピン・タイ・ベトナム)。国際交流基金主催。

一九七五年一月十六日(木) 第二十三回定期演奏会。都市センターホール。

徳山 舟英(尺八) 新井 尚(尺八)

藤崎 重康(尺八) 浦田久美子(三絃)

畦地 慶司(胡弓ほか) 小室 圭子(箏)

中西 仁子(箏) 飯吉 圭子(箏)

小川 知子(作曲)

清水 義矩・牧山伊津枝・中井 正之

△事務局▽

△団友▽

川崎祥悦・鞍掛昭二・鯉沼広行・佐藤敏直・芝 祐靖・芹沢英雄・高野文子・田中利光・仲俣申喜男・広瀬量平・鳳声晴由・星 旭・増田睦実・元橋康男

日本音楽集団事務局 〒一五〇 東京都渋谷区神宮前6-16-14

小早川ビル2F TEL (四〇九) 五三七四

第二十二回定期演奏会スタッフ 企画・構成 杉浦弘和

グラフィック 及部克人

現代邦楽ライブラリー

現代音楽の美を追求する全音のライブラリーで新しいレパートリーを!!



- ①三木 稔——四群のための形象(1.文様2.居機3.曲4.擣) 500円
- ②三木稔稔——箏 譚詩集 300円
- ③諸井 誠——対話五題—二本の尺八のために 300円
- ④助川敏弥——邦楽器のための〔形象〕 300円
- ⑤間宮芳生——四面の箏のための音楽・三面の箏のための音楽 500円
- ⑥小山清茂——和楽器のための〔四重奏曲第2番〕・〔三重奏曲〕 500円
- ⑦長沢勝俊——尺八・箏による〔萌春〕 400円
- ⑧長沢勝俊——箏四重奏曲 400円
- ⑨清瀬保二——尺八三重奏曲 400円
- ⑩湯山 昭——三面の箏によるカプリース
- ⑪三木 稔——独奏尺八のための〔孤響〕
三本の尺八のための〔ソネット〕 300円
- ⑫間宮芳生——尺八のためのプレリュード第1番・第2番 400円
- 近刊予定
- 山本邦山——山本邦山作品集
- 清瀬保二——日本楽器のための四重奏・尺八と箏五重奏
- 佐藤敏直——ディヴェルティメント
- 三木 稔——二十絃箏のための作品〔天如〕・〔佐保の曲〕・〔竜田の曲〕
- 石桁真礼生——笏・箏・鼓による〔無依の咏〕
- 石桁真礼生——箏のための組曲
- 長沢勝俊——独奏尺八のための〔詩曲〕
尺八・箏による〔まゆだまのうた〕

五線譜による

尺八教則本

山本邦山——著



全音判/1000円

この教則本は、単なる理論だけではなく、練習曲を豊富に用い、また五線譜・ロツレチ譜を併用して、どなたにも手軽に習得していただけるよう配慮されています。

●内容曲目

さくら／荒城の月／螢の光／ひえつき節／木曾節と伊那節／会津盤梯山／小諸馬子唄／おこさ節／コンチェルト第1番〔海の嵐〕／六段の調／千鳥の曲・他